

様式第4号（第11条関係）

議員派遣報告書

令和8年9月1日

さいたま市議会議長 高子 景 様

代表議員 桶本 大輔

次のとおり

{	☒ 海外先進都市行政視察
	☒ 海外姉妹都市・友好都市の訪問
	☐ 海外交流・連携行政視察
	☐ 国内先進都市行政視察

 をいたしましたので、その

結果を報告いたします。

記

1 目的

友好都市提携30周年を迎えるナナイモ市を訪問し、両市の友好親善を一層深め、更なる交流促進を目指すとともに、各種行政に関する視察・調査研究を行い、市政の発展に寄与する。

2 派遣先

カナダ ブリティッシュコロンビア州 ナナイモ市
バンクーバー市

3 派遣期間

令和8年7月12日 ～ 令和8年7月16日の5日間

4 派遣議員

添野ふみ子、桶本大輔、新藤信夫、松本翔、谷中信人、吉田一志

5 報告事項

別添報告書のとおり



令和 8 年度

友好都市提携 30 周年記念
ナナイモ市友好訪問・行政視察報告書



令和 8 年 7 月 12 日（日）～ 7 月 16 日（木）

さいたま市議会

目 次

1	はじめに	1
2	訪問・視察日程	2
3	団員名簿	3
4	ナナイモ市友好訪問・行政視察概要	
◆	ナナイモ市概要	4
◆	7月12日（日）	
◇	日系文化センター・博物館	5
◆	7月13日（月）	
◇	バンクーバー・コンベンションセンター	7
◇	在バンクーバー日本国総領事館	9
◆	7月14日（火）	
◇	ナナイモ市内行政視察・ナナイモ港湾局等訪問	12
◇	友好都市提携30周年記念公式式典	16
◇	歓迎会	19

1 はじめに

団長 添野 ふみ子

令和8年7月12日（日）から16日（木）までの5日間の日程で、本市の友好都市であるカナダ ブリティッシュ・コロンビア州 ナナイモ市を訪問しました。

今回の議員派遣は、友好都市提携30周年を迎えるナナイモ市を訪問し、両市の友好親善を一層深め、更なる交流促進を目指すとともに、各種行政に関する視察・調査研究を行い、市政の発展に寄与することを目的に実施しました。

短期間での日程ではありましたが、経由地であるバンクーバー市での日系文化センター・博物館、バンクーバー・コンベンションセンターの視察及び在バンクーバー日本国総領事館の表敬訪問、ナナイモ市での市内行政施設の視察、ナナイモ市主催による友好都市提携30周年記念公式式典並びに歓迎会への参加等を行いました。

ナナイモ市内のホテルで開催された歓迎会では、ナナイモ市の市長、市議会議員を始め関係者が同席する中、30年にわたる友好都市交流の成果と桜植樹事業や文化交流を通じた市民レベルのつながりを確認することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

各行程における訪問先で、市関係者や関係団体の皆様と活発かつ有意義な情報交換ができたことは、今後の市政の発展に大いに寄与するものであり、本訪問で得た知識や経験を、今後の議会活動に活かし市政発展に一層努力することを改めて決意する次第です。

今回の訪問において、御尽力くださいました関係者の皆様に、感謝申し上げます。

2 訪問・視察日程

令和8年7月12日（日）～7月16日（木）

月 日	発着地・滞在地	交通機関	訪問先・視察先等
7月12日 （日）	成田空港 発 バンクーバー空港着 バンクーバー市	飛行機 専用車	（機内泊） ・日系文化センター・博物館 （バンクーバー市泊）
7月13日 （月）	バンクーバー市 ナナイモ市	専用車 フェリー	・バンクーバー・コンベンション センター ・在バンクーバー日本国総領事 館 （ナナイモ市泊）
7月14日 （火）	ナナイモ市 滞在	専用車	・ナナイモ市内行政視察・ナナイ モ港湾局等訪問 ・友好都市提携30周年記念公式 式典 ・歓迎会 （ナナイモ市泊）
7月15日 （水）	ナナイモ市 バンクーバー市 バンクーバー空港発	専用車 フェリー 専用車 飛行機	（機内泊）
7月16日 （木）	成田空港 着	飛行機	

3 団員名簿



団長
添野 ふみ子



副団長
桶本 大輔



新藤 信夫



松本 翔



谷中 信人



吉田 一志

随 行 議会局総務部長 青木 久長

4 ナナイモ市友好訪問・行政視察概要

◆ナナイモ市概要

カナダは北半球の北アメリカ大陸の北部に位置する日本の約27倍の面積の国です。カナダは国家として多文化主義を掲げており、人口の多数を占めるヨーロッパ系の白人の他にも先住民であるファースト・ネーションやアジア等からの移民など、多様な背景を持つ人々が暮らす他民族国家となっています。

ナナイモ市は、総人口は約12万人であり、バンクーバー島の東海岸に位置し、豊かな森林、陰しい海岸線、そして広大なサリッシュ海を背景にした港町です。

ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリア市から北西に約110km、バンクーバー市からジョージア海峡を挟んで西に約55kmの場所に位置するバンクーバー島第2の都市で、フェリー、水上飛行機、ナナイモ空港などを通じて島を訪れる人々をつなぐ交通の要衝です。

古くは炭坑の町として広く知られ、現在は観光、林業、漁業が産業の中心となっています。



【市街地の風景】

また、近年は港湾インフラの整備にも注力しており、2025年4月からはデュークポイントターミナルの拡張工事が開始されています。

「ナナイモ」という地名は、先住アメリカ人の言葉で「人の会う場所」という意味です。

ナナイモ市と本市は、岩槻区にある目白大学とナナイモ市にあるバンクーバー・アイランド大学（旧マラスピナ大学）との交流がきっかけとなり、大学間の交流から市民レベルへの交流へと拡大することを目的として始まりました。「大学間の交流の歴史がある」、「人口規模が類似している」、「自然が豊かである」などの理由から、旧岩槻市との間で平成8年（1996年）9月25日友好都市提携の運びとなりました。

◆ 7月12日（日）

◇日系文化センター・博物館

【報告者 谷中 信人】

令和8年7月12日（日）、友好都市提携30周年記念ナナイモ市友好訪問・行政視察団の一員として、成田空港からバンクーバー市へ移動後、日系文化センター・博物館（Nikkei National Museum & Cultural Centre）を訪問した。

日系文化センター・博物館は、日系カナダ人の歴史・遺産及びカナダにおける日本文化を顕彰、保存、共有することを使命とする施設で、平成12年9月22日に開館し、博物館機能、文化センター機能、地域交流機能を併せ持ち、すべての人に開かれた複合施設として運営され、日系プレース財団や高齢者支援・住宅機能とも連携しながら、子ども、高齢者、移民など地域社会を支える拠点となっている。館内には展示スペース、リソースセンター、研究図書室、アーカイブ、日系ブックストア、ホール等があり、文化講座や地域行事、教育プログラムが実施され多くの資料が保存されている。



視察先では、カナダ西海岸における日系カナダ人の歴史と遺産、文化継承、多文化共生の実践を学び、さいたま市における国際交流、平和・人権教育、歴史継承、地域文化政策の充実に資する知見を得ることができた。当日は大きな歓迎を受け、ギャラリー、アーカイブ・コレクション、Nikkei Place campusなどを案内され、以下の説明を受けた。

- ・ 同館は日系カナダ人により、歴史・遺産・日本文化をより広い社会と共有するための施設として設立され、当初から日系人だけでなくカナダ社会全体、さらには海外からの来訪者にも開かれた場となり、日系カナダ人の歴史、とりわけ戦時下の差別、排除、強制移動の記憶などが保存、展示、継承されていた。同博物館が文化講座、教育プログラム、アーカイブ、地域交流を通じて、過去の記憶を現在の市民活動や次世代育成につなげている点が明らかとなった。

- ・所蔵資料には埼玉県に関係する内田家の資料が所蔵されており、日系カナダ人の歴史と埼玉県との接点を確認された。
- ・日系プレイスは文化施設であると同時に、日加自治体交流の象徴的な場にもなっている。ロビーに設置された2本の柱は、ブリティッシュ・コロンビア州に由来する木材と日本の檜を用いた、両国の長い友情を象徴するものとなっている。



日系文化センター・博物館は、単に日本文化を紹介する施設ではなく、歴史と文化を次世代に継承する役割を担う施設であると実感した。歴史の記録にとどまらず、展示、アーカイブ、教育、文化講座、庭園、祭り、地域団体との連携を通じて次世代へ継承する場となっており、地域の暮らし、教育、世代間交流の中に位置付けることで初めて持続的なものとなることを学んだ。

さいたま市、とりわけ岩槻区はナナイモ市との友好都市交流の歴史があり、30年にわたる友好関係を祝うだけでなく、さいたま市とカナダとのつながりを再確認する機会となった。今後は岩槻の人形文化や盆栽文化や国際交流の蓄積を、市民が参加し、学び、語り継ぐ仕組みとする必要がある。今回の視察で得た知見を、さいたま市における国際交流、平和・人権教育、文化継承、地域資料の保存活用等に生かしていきたい。



◆ 7月13日（月）

◇バンクーバー・コンベンションセンター

【報告者 桶本 大輔】



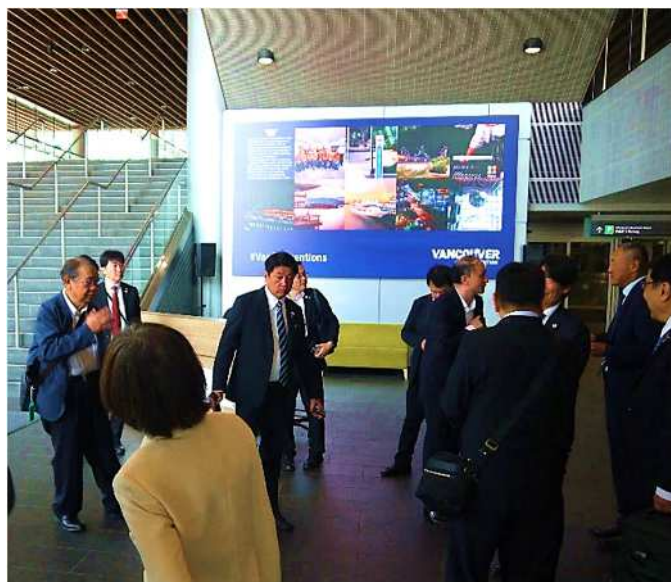
バンクーバー・コンベンションセンターは、バンクーバー港に面したウォーターフロント地区に位置する北米有数の国際会議・展示施設である。東館と西館の2棟で構成されており、地下の通路で結ばれている。

大規模な国際会議、展示会、見本市、イベント等が年間を通じて開催されており、国際交流や地域経済の発展に大きく寄与している。

また、環境に配慮した施設としても知られ、約24,000㎡ある屋上緑化を始め、先進的な環境技術を導入していることも特徴である。

施設内では、大規模会議や展示会に対応可能なホール、会議室、多目的スペース等に加え、屋上緑化や海水利用による省エネルギー設備など、環境負荷軽減を目的とした施設整備の状況を見学するとともに、国内外から多くの参加者を受け入れるための運営方法や利用促進の取組についての話を伺った。

当日は、第10回世界バイオメカニクス会議が開かれており、会場内、廊下などにもパネルが設置され、多くの研究者が随所で議論を展開していた。



【屋上緑化】

※地元に自生している約4,000種類40万株の植物を植えている。

なお、経済波及効果は年間450億ドル（4,700億円）であり、地元の社会的企業、慈善団体、コミュニティグループとのパートナーシップを通じて、ホームレスのコミュニティの支援にも役立てられるとのことであった。



バンクーバー・コンベンションセンターは、国際会議や展示会などの大型イベントの開催を通じて、国内外から多くの来訪者を呼び込み国際交流や地域経済の活性化に大きな役割を果たしていることが確認でき、コンベンション施設が単なる会議施設ではなく、観光、地域経済、国際交流及び都市ブランドの向上を支える重要な都市基盤であることを再認識した。本市における交流人口の拡大や地域活性化施策を検討する上で、大変有意義な視察であった。

また、環境に配慮した施設設計と経済効果を高めるための運営を両立している点は非常に先進的であり、持続可能な公共施設のあり方について多くの示唆を得ることができた。特に、屋上緑化や自然エネルギーの活用などは、今後の公共施設整備において参考となる取組である。



◆ 7月13日（月）

◇在バンクーバー日本国総領事館

【報告者 新藤 信夫】

夏のバンクーバー市街は、生い茂る木々に彩られ、背後に緑豊かな山々が連なり、湿度が低く爽やかな晴天が続いて、サラリーマンや観光客で街全体が活気にみなぎっていた。

ナナイモ市への訪問に先立ち、7月13日に在バンクーバー日本国総領事館を表敬訪問した。

在バンクーバー日本国総領事館はバンクーバー市のダウンタウン、ウエスト・ヘイスティング通りに面したビルの9階が受付となっており、当日は杉尾 透首席領事、木山 雅之領事の出迎えを受けた後、カナダの概要、管轄区域であるブリティッシュ・コロンビア州（BC州）、ユーコン準州について説明があった。また、現地に在住する日本語学習者を対象に、学習成果を発表する場として毎年行われる「BC州日本語弁論大会」の開催に当たり、さいたま市を含む姉妹都市から協力があつたことへの感謝と、この大会が日本語教育の推進とともに若者の交流や相互理解の促進に寄与し、日加間の文化のつながりを支える事業となっているとの報告があつた。



その後、カナダの情勢やBC州に関する説明及び意見交換を行った。

在バンクーバー日本総領事館は、カナダに5か所ある日本の外交領事機関の1つでBC州とユーコン準州を管轄している。

日本からは直行便で9時間程で到着し、近郊の自然が楽しめることから人気のある地域にも関わらず、近年の円安もあって年間15万人程度と日本人観光客は減少傾向にある。カナダから日本への観光客数は年間70万人近くまで伸びていて大きな差が生じている。

在留邦人はカナダ全体で約7万5千人、その内約3万6千人がBC州に集中し、留学生やワーキングホリデーばかりでなく、永住者（移民）の割合が高いのも特徴となっている。



また、現地で生まれカナダ国籍を取得した日系カナダ人も約4万人がBC州で暮らしていて、日本人・日系人コミュニティを作っている。

日本人の移住は100年以上前から始まり、第1次世界大戦では従軍して政府に協力する若者もいた。しかし、第2次世界大戦では敵国条項によりカナダ政府は、西海岸から100マイルに住む全日系人を内陸の収容所に強制移動、財産は強制処分とした。収容

所での生活は大変つらい時期もあったとのこと。さらに終戦後には日系人の忠誠審査が行われ、カナダ東部への移動もしくは日本への「強制送還」の2択が求められ、戦後1947年までに日系人3,964人が日本に強制送還されている。1970年日本人カナダ移住100周年を迎えて補償要求問題が高まり、1988年にはカナダ政府が連邦議会において公式に謝罪と補償を表明して、現在は名誉を回復している。

現在BC州では、人口の約1.1%に当たる約5万5千人の日系カナダ人が暮らしており、バンクーバー市内に集中している。市内各地域では、日系カナダ人団体を組織して福利の向上や日本文化の維持のために活動を行っている。

日系移民から始まるカナダとの文化・歴史の交流は、日本にいてはあまり知ることがなかったが、第1次世界大戦、第2次世界大戦時の偏見を乗り越えてコミュニティを作り上げてきた日系の人たちの苦労に敬意を表したいと思う。

災害については、カナダ西海岸は2つのプレートがぶつかる地震地帯の上にあり、領事館からは日ごろからの対策を呼び掛けている。またユーコン準州では地球温暖化の影響もあってか、山火事や洪水が頻繁に発生している。

経済においては、安定した経済大国で化学技術の水準も高く、日本企業の優良な投資先となっている。2028年には日本・カナダの外交関係開設100周年を迎えることから、今年3月にカーニイ首相が訪日された際行われた首脳会談において、両国関係を「包括的戦略的パートナーシップ」へ格上げすることで一致している。

貿易では、豊富な天然資源を有するエネルギー大国であるカナダから、日本は銅、石炭、鉱物資源、農産物を輸入し、日本からは自動車や工業製品を中心に輸出しており、日本はカナダにとって第5位の輸入相手国であり、第3位の輸出相手国となっている。

中でもBC州は、カナダ全州の中で対日貿易額は第1位（2026年3月現在）で、対日輸出額56億カナダドルとなっている。主な品目は石炭、木材などであるが、農産品ではメイプルシロップやロブスターが有名で、近年ワインや果物等の農産品の輸出も増加している。対日輸入額は46億カナダドルで、主な品目は自動車や自動車部品となっており、円安の影響もあって輸入額が伸びている。日本からの進出企業も多く、主な企業で現在271社が進出している。



領事の説明では、将来カナダへの投資は拡大し、ナナイモ市でも港湾整備の投資が行われる予定となっているが、日本企業からの投資も増やす必要性を感じた。

農産物の輸出については、BC州からのブルーベリーの輸出量の9割が日本向けだと聞いた。季節にもよると思われるが、日本のマーケットで売られているブルーベリーのほとんどがカナダ産のようであり、さいたま市内の生産農家を圧迫してはいないかと心配になる。

る。気候の変化や農業技術の向上もあって、多くの外来品種の栽培が可能になり定着するものもあるが、輸入拡大によってそれら国内生産が縮小するようでは問題化するのではないか。国内生産力の向上支援も必要であると感じた。

バンクーバー市もナナイモ市も港湾を中心として発展してきた街である。また、20世紀までは、バンクーバー市からは内陸へ鉄道を中心に物資の運搬が行われてきたが、道路の整備も進みトラック輸送へと転換してきている。しかし、鉄道輸送の重要性は変わっていないと思われる。一方、道路網は整備が行き届いていて、ナナイモ市のあるバンクーバー島内においても各都市はハイウェイで結ばれ車での移動は大変便利で、車社会における道路整備の重要性を改めて感じさせられた。さいたま市は政令指定都市の中で道路整備率が低いため、今後の課題であると感じた。

今回の視察では、ナナイモ市訪問を前にBC州、ナナイモ市について、領事館の皆様より詳細な説明をして頂き、その後の訪問先での知識として大変参考となった。領事館の皆様へ感謝申し上げるとともに、ナナイモ市まで同行して頂いた杉尾首席領事には、これからのご活躍を祈念します。



◆ 7月14日（火）

◇ ナナイモ市内行政視察・ナナイモ港湾局等訪問

【報告者 松本 翔】

ナナイモ市の人口は約12万人。人口は微増傾向にあり、若い現役世代の流入が目立っている点はさいたま市と同様の状況にある。バンクーバー島の入口のまちとして、港湾施設を有し、交通の結節点となっている。

市内及び港湾局施設の視察にはレナード・クローグ ナナイモ市長に同行いただいた。市についての法的な位置づけは憲法になく州が基礎自治体を位置付けていること、公園、道路、水道、下水が市の所管であること、日本の幼稚園の年長がカナダでは小学1年生となり小学校は7年制となること、自宅のための土地と建物を購入すると1億円は必要となり、最低賃金が約2,000円と日本の倍近くあるが共働きの比較的余裕がある世帯でないと自宅の購入は難しい状況であることなど、様々なお話を伺うことができた。

また、炭鉱のまちとして発展してきたが、炭鉱が歴史的役割を終えると、主たる産業はない状況になり、最近では観光に力を入れているとのこと。

まちの土地利用は、ダウンタウンがまちの中心市街地として、ホテルや飲食店など様々な店舗が集まっていた。道路に沿って庭付きの広い住宅が張り付き、ロードサイドに店舗が点在し、また、小さなモールにチェーン店などが集積するのは岩槻区でも同様なまちづくりであると感じた。

決定的な違いは、さいたま市を含め日本が農耕民族であり、自宅の周辺に農家が畑や田んぼを持ち耕作しているが、ナナイモ市、バンクーバー市ともに農地を見ることがなかったこと。5エーカー（約2ヘクタール）農園などが点在するという話は聞くことができたが、田園風景を全く見ることはできなかった。

点在する木々、広い芝生の庭、街路樹と公園の緑の量が大きいというか、ナナイモ市の場合はそのまま森林を活かしているといった方が的確かもしれない。

道路については広く、まち中の街路樹・草地在、家々の庭とつながることで、緑地空間の質が高く、コリドーとしてより機能していると評価できる。さいたま市の緑地空間の確保の方針は更なる検討の余地が極めて大きく、まちの中の緑の質を高めるために道路用地の拡幅も行う必要がある。また、維持管理費も十分に確保し、適切に管理される必要がある。

なお、視察の移動中に見かけた郵便ポストについて、各家に1つではなく、集合ポストとなっていたことを確認したところ、郵便配達員の不足に対応するものであり、赤字体質の郵便事業の効率化策の1つとのことであった。一方で、公共交通の運転手などの人手不足は目立っていないことから、日本より深刻な状況にはまだないようである。

○ナナイモ市内施設の視察

ナナイモ市には、公園がたくさんあり、面積も広く特徴的な公園が多かった。

また、スポーツ施設もかなりの数を有していることが確認できた。種目も、カナディアンラグビー場をはじめ、サッカー場、野球場、テニスコート、カーリング場など複数あり、維持管理のコストが気にかかる。公園に配置されている遊具については、日本より数が多い。生活+αの部分は充実しているように感じた。

マフェオ・サタン公園

岩槻区に贈られたようなトーテムポールが設置されていた。

ナナイモ市役所

旧岩槻市役所より小さいものだった。議員数は8人で、日本の基礎自治体と所管する範囲等が異なるようである。

センテニアル公園

各公園に、スポーツ施設が充実している。アイスホッケーの練習場やサッカーコート、テニスコートなど複数が設置されていた。

ボエン公園

さいたま市が友好の証として寄付した桜の木が植えられていた。



バンクーバー・アイランド大学

旧岩槻市とナナイモ市の連携の起点である目白大学からの留学生を受け入れていた大学。

スタジアム地区

カナディアンフットボール、野球の小規模なスタジアム、陸上トラック、市民プールなどが集積されたエリア。

ウェストウッド湖公園

大きな湖にある公園であるが、国営ではないので市の職員が作業していた。また、湖で市民が楽しんでいるため、更衣室を伴った施設を建設中であると市長から説明があった。

○ナナイモ港湾局施設の視察

民間ではなく、連邦政府機関として運営は独立して行っている。日本とのつながりは、材木の輸出。ナナイモの港湾施設は、バンクーバー島の玄関口の1つとして、物流のハブ

として機能している。また、カナダ全土を見て、4つの港が、西側にあって、その残りが東側にある。取引の6割がこの4港に集中しており、重要性が高い。また、私たちが乗船したフェリーだけではなく、水上飛行機、高速船(本拠地がナナイモ市)、個人所有の船、レジャーボート、小型船、漁船が停泊できる。

ナナイモ港湾局は、安全の確保、緊急時の対応ができるよう備品などの準備を州として行っている。



代表理事の方が、建設会社のオーナーであったためカナダの現状をお聞きした。建設のコストが跳ね上がっていて、様々な建設プロジェクトが延期され始めている。物価の高騰は、日本だけではなく、労働者不足も合わせて、カナダでも同様の状況のようである。港湾に対する投資は、カナダ政府が行っている。今後、カナダ政府としては、鉄道へ2兆円の投資を行うことにもなっている。

港湾インフラへの投資は、160億円のプロジェクトである。カナダ政府が50億円、BC州が18億円、残りは港湾局の投資、民間企業の投資となる。

ナナイモの港湾は、コンテナのキャパを70万台分整備し、カナダ移民局による入国審査も可能とするなど、機能強化を図っており、カナダ全体のサプライチェーンに影響を与えるだろうとの説明があった。

また、着岸・停泊と荷下ろしが行いやすい場所を増設し、バンクーバー港に過度に集中してしまっている業務をナナイモ港で行うことで、バンクーバー港の負担軽減を図ることができるとの見解が示された。

経済波及効果としては、130億円と見込まれており、3,500人の雇用を創出する。



【ナナイモ港 管轄区域】

そのうち30億円が雇用関係の直接的な効果となるとのこと。ナナイモの港湾の発展と開発は、地域にとどまることなく、カナダ全体に大きなメリットをもたらすものとのこと。



建設業界の人材不足対策として、カナダ連邦政府・州政府が人材育成への投資を増やしており、期待していること、また、担い手不足が課題となっている林業については、公共のプロジェクト、大学、病院等に要する資金を確保していくためにも、資源が豊富なカナダにおいては、林業への投資が不可欠であるとのことであった。

港湾の整備によって、雇用も生まれ、人口は今後増えていくことが予想される。その中の課題をレナード・クローグ ナナイモ市長に聞いたところ、さまざまなエリアで、コミュニティが運営に関わること、パートナーシップを結ぶこととお話があり、特に先住民へのリスペクトは重要であり、配慮を忘れてはいけないとのことであった。

相手方のまちを知るということで、短時間の中で、多くの行政施設を巡り、ナナイモ市にある重要施設かつ今後開発が進むナナイモ港湾局の視察をご用意いただいた。若い世代が流入しているさいたま市とナナイモ市。11万都市の岩槻区と12万都市のナナイモ市で、地下鉄延伸と港湾開発とビッグプロジェクトを抱えた2つのまちという共通点があった。合併やコロナを経て、途絶えていた国際交流を再開させていくためにも、相手を知り、どんなことができるのかを模索することができた。



◆ 7月14日（火）

◇ 友好都市提携30周年記念公式式典

【報告者 吉田 一志】

さいたま市とナナイモ市の友好都市提携30周年を記念する行事がナナイモ市内のベバンパーク・ソーシャルセンターで開催された。30周年記念宣言署名式では、清水さいたま市長とレナード・クローグ ナナイモ市長が記念宣言に署名し、桜の記念植樹を行い、両市の友好関係を再確認した。

式典では、冒頭に、先住民のマズ・パカワさんによる歓迎の演目が披露された。

ナナイモ市のクローグ市長は、両市の長年にわたる絆を祝し、1996年の協定署名以来、市民や地域の多様な活動を通じて友情・文化交流・相互尊重が深まってきた歴史を強調。日本からの来賓や関係者の支援に感謝の意を表した。さらに、両市が共通の価値観を分かち合いつつ互いの違いを称え合う重要性を述べ、将来に向けて交流と協力を継続し、友好関係をさらに深めていく決意が示された。

清水市長も、友好都市提携30周年を祝し、初めてナナイモ市を訪問できた喜びを述べた。25周年の節目では、コロナ禍という困難な状況の中でオンライン交流を実施し両市の友好関係を確認したことや、ナナイモ市日系人の会であるセブン・ポテトの会タミコ・ジェーン・ヒラサワ会長が本市に訪問いただいたことなどの経緯を紹介。大学間交流からスタートした両市の絆が多くの関係者の力によって固く結ばれてきたことを述べ、感謝の意を表した。そして、今回の訪問では、両市にとって有益な情報交換を行い、効果的な交流へと繋げていきたい考えを述べた。



添野副議長は、派遣団の団長として歓迎への感謝の意を表するとともに、これまでの30年間の交流に触れた後、市議会としても今後の両市の親善の和が広げられるよう決意を述べた。

その後、在バンクーバー日本国総領事館首席領事、杉尾透氏が挨拶に立ち、友好都市30周年という節目の式典に参加できたことへの謝意を述べられ、今後の両市のより一層の交流への期待を寄せられた。

4人の挨拶の後、清水勇人さいたま市長とレナード・クローグ ナナイモ市長が、友好都市提携30周年を記念した確認書に署名し、関係者の記念撮影を行った。

式典では、参加者同士の交流が図られるよう、ティータイムが設けられ、現地で有名なスイーツやメイプルティーが振舞われ、先住民、ナナイモ市議会議員、ナナイモ市日系人の会セブン・ポテトの会メンバーと交流を行った。また、ナナイモ市で進められている日本式ランドスケープ（サクラ庭園）の2つのプロジェクトについて紹介等があった。このプロジェクトは、日本とカナダの交流が深められる場として活用されるようデザインして推進されていた。最後に、屋外に移動して桜の木の記念植樹を行った。



当日は、ナナイモ市のクログ市長、ナナイモ市議会議員、セブン・ポテトの会の皆様が大歓迎してくださいました。式典を大成功させた熱い想いが込められた細かな配慮が随所に感じられた。





特に、セブン・ポテトの会メンバーは、現地のコミュニティ形成へ長年尽力されており、さいたま市との都市間交流に大きな期待を寄せていると感じた。

ナナイモ市のクログ市長は、この日の行程にずっと同行してくださり、歴史・文化・産業など丁寧にご案内いただいた。式典の挨拶においても、将来に向けた交流と協力を継続していく強い決意が述べられていた。

同市では、日系人の会であるセブン・ポテトの会が活発に活動されており、移民や先住民が居住する地域コミュニティと本市を繋ぐパイプ役として存在しており、今後の交流・協力を深める可能性を強く感じた。

◆ 7月14日（火）

◇ 歓迎会

【報告者 桶本 大輔】

ナナイモ市主催の歓迎会のナナイモ市長の挨拶では、1996年の友好都市提携以来、教育交流、文化交流、市民交流などを通じて両市の関係が発展してきたことが紹介されるとともに、今後も継続的な交流を推進していく決意が示された。

その後、記念品の贈呈及び記念撮影が行われ、30周年という節目を祝う和やかな交流の場となった。



令和 8 年度　さいたま市議会
友好都市提携 30 周年記念
ナナイモ市友好訪問・行政視察
報告書